

魔法のプロジェクト2021 活動報告書

報告者氏名: 石田実香 所属: 群馬県太田市立鳥之郷小学校

記録日: 2021年2月9日

キーワード: 基礎学力の定着、集団参加

【対象児の情報】

○学年 A児: 小学4年生 男児

○障害名 診断名なし

○障害と困難の内容等

〈学習面〉

- ・小学3年生より特別支援（情緒）学級に在籍している。
- ・国語、算数、自立活動は特別支援（情緒）学級、他の教科や活動は協力学級で学習をすることになっているが、協力学級での学習は好きなことや得意なこと以外は参加を拒む傾向にある。
- ・苦手意識があったり、興味・関心が低かったりする教科（英語・音楽）や学習内容（文章を読んだり書いたりすること。かけ算・わり算の計算など。）にはなかなか取り組めず、基礎学力の定着が困難。
- ・一斉指導の形態では、落ち着いて学習に取り組むことが苦手で、自分が喋りたいときに勝手に喋り出したり、気になるものやことがあると急に離席したりする。
- ・協力学級で学習をする際は、座席やグループのメンバー等、配慮を要する。

〈行動面〉

- ・衝動性が高く、集団の中で落ち着いて活動することが困難。
- ・周囲のペースに合わせたり、状況や相手の気持ちを考えたりすることが苦手。
- ・気になるものやことがあると、活動の途中でも衝動的に行動してしまう。
- ・規範意識が低く、集団のルールが守れない。
- ・思い通りにならないと、周囲の人に暴言・暴力が出る。
- ・人懐こく、進んでコミュニケーションを取ろうとするが、相手の気持ちや状況を考えることが苦手なため、不適切な関わり方になってしまうことがしばしばある。
- ・同級生の友達よりも、低学年の児童や教師との関わりを好み、教師に対してしばしば過剰なスキンシップを求める傾向にある。

○使用した機器

iPad（本プロジェクトより貸与）

Chromebook（学校貸与機器使用）

【活動目的】

○当初のねらい

- ①学びやすい方法で、基礎学力の定着を図る
- ②周囲に認められる経験を通して、集団参加できる場面を増やす

○実施期間 2021年6月～2022年2月

○実施者 石田実香

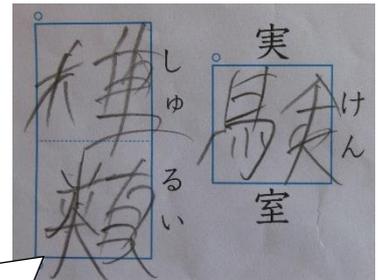
○実施者と対象児の関係 特別支援（情緒）学級 担任

【活動内容と対象児の変化】

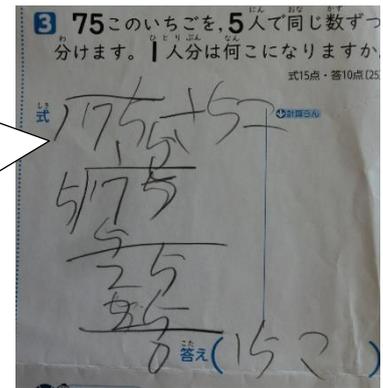
○対象児の事前の状況

〈学習面〉

- ・書字については、字形を整えてマス目の中に書くことが難しく、漢字練習帳のマス目を拡大したもので練習をしている。
- ・読むことについては、本児は4年生だが3年生までの漢字が4割程度しか習得できていないため、おおよそルビが必要。長い文章は見ただけで拒否をするため、短くして提示したり、カラーバールーペで読むべき部分を示したりすると、正しく読むことができる。
- ・かけ算九九が完全に習得できていない。九九表を使って、かけ算の筆算やわり算をすることはできるが、かけ算とわり算の意味は、正しく理解できていない。
- ・文章問題は文章を読むことを拒否するため、教師が読み上げて問題をイメージしやすいようにイラストで示す等の支援を要する。
- ・『読めた』『わかった』『できた』読み書きアセスメント（東京都教育委員会）によるアセスメント（6月実施）結果は、以下の通りである。



画数の多い漢字を正しく書いたり、マスの中に形を整えて書いたりすることは、困難。



式や筆算を記入する場所に、形を整えて正しく計算式を書くことが困難。

『読めた』『わかった』『できた』読み書きアセスメント(東京都教育委員会)6月実施結果

読み書き達成度テスト	困難さを示す基準(正答率)
聴覚記憶	B やや困難 (50%)
視覚記憶	正常 (75%)
漢字の書きの基礎スキル	正常 (76%)
漢字の読み	正常 (90%)
漢字の書き	A 困難 (25%)
読解短文	B やや困難 (57%)
読解長文	A 困難 (29%)

聴覚記憶が弱い傾向

漢字の読みに対し、書くことに著しい困難あり。

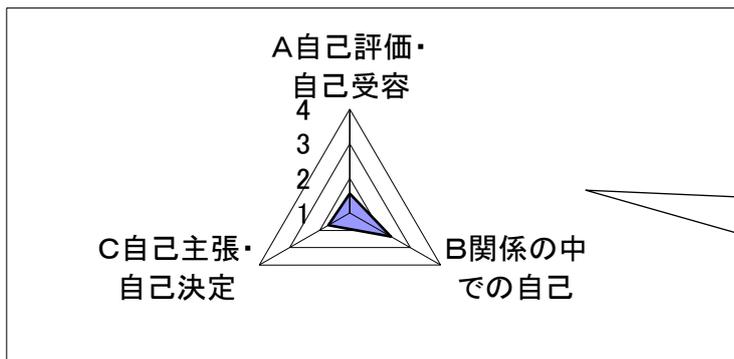
文章の読解は、全般的に困難さが見られる。特に長文の読解は、著しい困難あり。

〈行動面〉

- ・集団のペースに合わせて活動ができない。
- ・自信が持てない活動は、集団の中で取り組もうとしない。
- ・図画や工作を好み、余暇時間には図画や工作をして楽しむことがしばしばある。しかし、図工の授業で提示された課題のテーマに沿って創作活動をするのは難しい。
- ・体を動かすことを好み、体育の授業は進んで参加できる。しかし、体育着に着替えたり、決められた位置に整列したりすることを拒む傾向にあり、指示に従って活動をするのは難しい。

・「自尊感情測定尺度（東京都版）」によるアセスメント結果は以下の通りである。

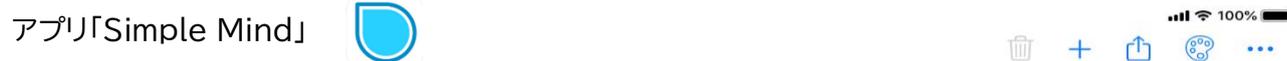
「自尊感情測定尺度（東京都版）」6月実施結果



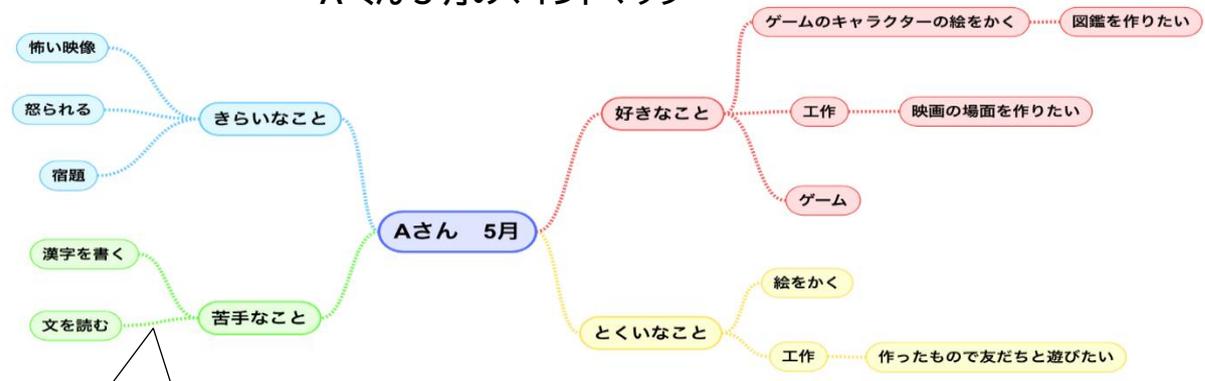
Category	Score
A 自己評価・自己受容	1.56
B 関係の中での自己	2.36
C 自己主張・自己決定	1.71

どの観点も値が非常に低く、A さんの自尊感情が著しく低いことが分かる。

・A さんの思いをマインドマップで視覚化した結果は以下の通りである。



Aさん 5月のマインドマップ



漢字を書くことや文章を読むことが困難であることは、本人も自覚していることが分かる。

得意な仕事を、友達に認められたいという思いや、友達と関わりたいという気持ちが分かる。

○活動の具体的内容及び対象児の事後の変化

①「学びやすい方法で、基礎学力の定着を図る」ために

<漢字を書くことの支援として>

・学習アプリ「小学生漢字ドリル」の活用(6月～)



国語の課題が終わった後に、主に活用した。学年にこだわらず、これまで学習した中で習得が不十分な漢字を中心に取り組んだ。また、このアプリで練習したらすぐにミニテストを実施した。ミニテストは4文字だけにし、少ない量で集中して取り組むようにしたことで、抵抗なく取り組むことができた。

また、A さんはそれぞれの熟語に関連したイラストが描かれていることに興味を示し、イラストを見ながら熟語の意味を考えることで、熟語の理解が促進された。

・Chromebook 写真編集アプリの活用(6月～)

新出漢字の学習では、漢字ドリル（あかねこ漢字スキル）の文字を Chromebook のカメラで撮影し、撮影した文字を最適な大きさにして手描きツールでなぞる練習に取り組むようにした。

画数の大きい文字を大きくしたり、間違えたらすぐに訂正できたりすることで、書くことに困難を感じている A くんにとって、負担が少なく取り組める様子が見られた。



漢字の学習アプリで新出漢字を検索して練習するよりも、冊子の漢字ドリルを撮影する方が A くんには簡単な様子で、一人で撮影して練習ができるようになった。

・Chromebook インターネット漢和辞典の活用(9月～)

インターネット漢和辞典「mojinavi」



新出漢字の定着をねらい、そのつど習った漢字を漢字辞典で調べてい

たが、本の漢字辞典はたくさんの文字から見つけ出すのに時間がかかることで、調べることを拒否することもしばしばあった。そこで、Chromebook を用いてインターネットによる漢字検索をさせることにした。



本の漢字辞典よりも簡単に検索ができるため、飽きずに取り組むことができた。さらに、手書き検索もできることから、AI が理解できる文字を入力するために丁寧に手書きをしようとする意識が生じ、字形を整えて書くことが苦手な A くんには有効であった。

<文章を読むことの支援として>

・デジ教科書の活用(学習アプリ「しゃべる教科書」)(6月～)



主に、音読の練習に活用。読み上げ機能は音声が入らないとのことでオフにし、マーカーで示された部分を音読させるようにした。読み上げ機能はほとんど使わないものの、読むべき部分がピンポイントで分かり、必要に応じて文字の大きさを変えられるので、カラーバールーペをそのつど当てながら読むよりも音読しやすい様子が見られた。

・学習アプリ「ことばのべんきょう」(6月～)



語彙を増やすことをねらい、活用。A くんの実態から、1 学年下の 3 年生用を活用した。また、文字の大きさを整えて書くことが苦手なため、考えた短文を iPad の画面に書くことはせず、大きなマス目のノートに記入させるようにした。国語の授業の最後に毎日 1 つずつ取り組むことで、徐々に自分の経験等に関連付け、語彙を用いた短文を 1 人で考えられるようになってきた。

・「Google Slides」の活用(10月～)



2学期になって「Google Slides」の使い方がだいぶ慣れてきた様子から、国語の授業において、調べた語句や新出漢字に関連する画像を入れてまとめることに活用した。

『ごんぎつね』の学習では、「Google Slides」で「ごんぎつね図鑑」を作ることにし、調べた語句や新出漢字に関連する画像と簡単な文字でまとめた。画像をスライドにしてまとめる作業を好み、語句の意味調べや、新出漢字の使い方を進んで調べる姿が見られた。



<計算することの支援として>

・学習アプリ「あんざんマン」の活用(6月～)

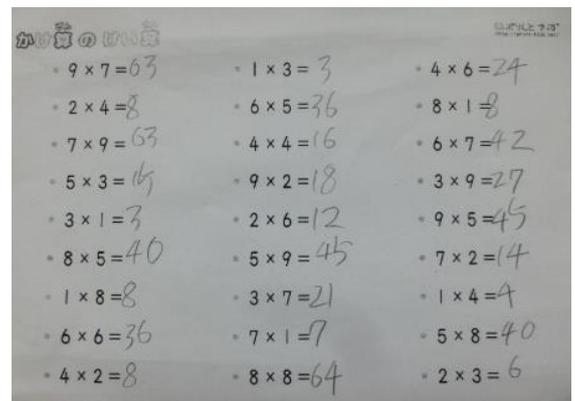


算数の課題が終わった後や、始業前・下校前の隙間時間に活用した。他にも計算学習アプリはiPadに入っているが、Aくんは「あんざんマン」のキャラクターが気に入った様子で、このアプリならば進んでかけ算九九の練習に取り組むことができるようになった。

・毎朝ルーティンの計算ドリル(6月～)

4年生になってもかけ算九九の習得が不十分であったため、始業前の時間に、毎朝かけ算九九の計算問題に取り組みさせた。4月当初は、段ごとの昇順問題を毎朝各2段ずつ取り組んだ。5月には、段ごとの降順問題にも取り組めるようになり、6月中旬にはかけ算九九のランダム27問に取り組めるようになった。

2学期からは、一桁のわり算ランダム27問にも取り組むようにさせたところ、9月下旬には短時間でわり算も正しく計算ができるようになってきた。



・計算アプリ「脳トレHAMARU」の活用(9月～)



算数の課題が終わった後や、始業前・下校前の隙間時間に活用した。かけ算九九の習得が完全にできた2学期から活用を始めた。計算そのものに苦手意識を感じていたAくんだったが、かけ算九九が習得できるようになったことが本人の自信につながり、この計算アプリを進んで使うようになった。

ゲーム的要素が強いため、気持ちの切り替えが苦手なAくんは始めるとなかなか終わりにできないこともあるが、足し算・引き算を暗算する力が向上した。

②「周囲に認められる経験を通して、集団参加できる場面を増やす」ために

<周囲に認められたり、集団参加を促したりする支援として>

・「NHK for School」の活用(6月～)



Aくんは特別支援学級でもやや浮いた存在で、特別支援学級の友達ともうまく関われない姿が目立った。そこで、自立活動の時間に「NHK for School」の特別支援向けコンテンツ『スマイル!』『u&i』を活用し、学級全体でゲームやロールプレイなどの SST に取り組み、特別支援学級の友達と良好な関わりができるようになることをねらった。

学習の導入に見せて SST に取り組む動機付けとして活用することで、事前にイメージや見通しを持つことができ、Aくんを含め特別支援学級児童全体がスムーズに SST に取り組めることが増えてきた。

・「Google Classroom」の活用(6月～)



協力学級との連携を図るために「Google Classroom」を活用し、特別支援学級に居ながら協力学級との連絡や課題のやり取りができるようにすることをねらった。

6月は使い方に慣れることを目的に、特別支援学級の Classroom を開設した。すると児童たちはストリームのチャット機能に興味を持ち、ストリームを使って会話を楽しむようになった。年度当初 Aくんは特別支援学級の中でも浮いた存在で、周りとうまく関われずにいたが、チャット機能で間接的に会話ができるようになると、苦手なローマ字入力を頑張り、楽しそうにコメントする姿が見られるようになった。

6月下旬、同じ学級の5年男子 Bくんと些細なことから悪口の言い合いになった。どちらも非を認めず、そのまましばらく距離を置いていたところ、余暇時間に Aくんと Bくんがストリームのチャット機能で会話をしている様子が見られた。会話の内容を見ると、普段は素直に謝れない Aくんが、ストリームでは Bくんに「ごめん」と謝ったり、素直に意見に同意したりするコメントをしていた。以下に示したのが、その時のストリームによる Aくん(赤色)と Bくん(青色)のやり取りである。

ひばり 1

ストリーム 授業 メンバー 採点

6月29日
会話これでいいじゃん

6月29日
ごめん

6月29日
だいこん

6月29日
おっ

6月29日
うまし

6月29日
うん

赤色で名前を消しているのが Aくん

青色で名前を消しているのが Bくん

普段、あまり仲良く関われない特別支援学級の Bくんに、「ごめん、〇〇」と謝るコメントをしていた。

Bくんの意見に素直に同意するコメントも見られた。

上記から、面と向かって素直に自分の気持ちを話すことは難しい Aくんだが、チャットのような間接的なやり取りならば、素直に自分の気持ちを表現できることが分かった。しかし、常時使用できるチャットルームのようになってしまうと、規範意識の低い本学級の児童達はフリートークが行き過ぎてしまう心配があったため、現在は学級内の連絡事項のみ活用するようにしている。

また、2学期からは、協力学級の Classroom にも入れるようになり、現在は協力学級との連絡に主に活用している。参加が難しい協力学級の学習課題等をオンラインで確認できることで、集団参加が苦手な Aくんには有効であった。

・「Google Meet」「Jamboard」の活用(7月～)



協力学級における学習参加が難しいときは、「Google Meet」を活用して特別支援学級に居ながら協力学級への授業参加ができるようにし、なるべく学習の空白を作らないことをねらった。

「Google Meet」による協力学級の授業では、協力学級の担任が画面を通して A くんへ声を掛けると、元気に「はい！」と返事をし

て指示された活動に素直に取り組むことができ、離れた空間に居ながらも授業にしっかりと集中できている様子だった。また、時々協力学級の友達が画面を覗いたり手を振ってくれたりすると、嬉しそうに手を振り返す姿が見られた。

さらに、協力学級の話し合い活動で「Jamboard」を活用していることから、「Google Meet」と「Jamboard」を併用し、オンラインによるグループワークの参加ができるようになった。

Chromebook 1 台でも画面を切り替えながら「Google Meet」と「Jamboard」を併用することが可能だが、グループの友達の様子を見ながら話し合いをしつつ大きな画面で「Jamboard」で友達の考えを読んだり、自分の考えを入力したりする方が A くんには扱いやすいと考え、2 台の Chromebook を並べて活用した。友達の書いた付箋を 1 つ 1 つ丁寧に読んだり、自分の考えをローマ字入力に苦戦しながらも付箋にまとめたりする姿が見られた。書字にコンプレックスのある A くんだが、タイピングによる文字でグループワークを行うため、嫌がることなく取り組むことができた。

しかし、徐々に慣れが生じ、自分の存在を認めてほしいという承認欲求の高まりを抑えられないと、わざと画面越しに大きな声を出したり、Jamboard 上の友達の付箋を動かしたりするようになり、使用が難しい場面が増えてきた。A くんが主体的に取り組める学習にはこの手立ては有効だが、興味が持てない学習ではかえってふざけてしまう要因に繋がり、常に有効な手立てではなかった。

・「Google Slides」の活用(7月～)

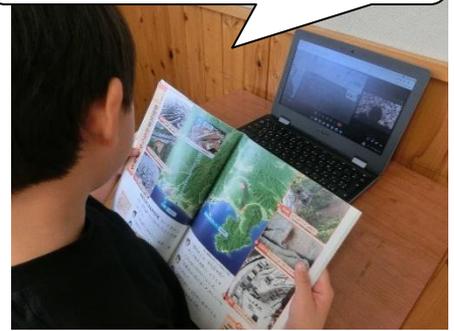


A くん得意なこと(図画、工作など)を、「Google Slides」を用いて写真や映像、簡単な文章等でまとめ、協力学級のみんなに発表することをねらった。

7月上旬頃から、これまでに余暇時間で製作した図工作品や絵を A くん Chromebook で撮影し、「Google Slides」に作品集としてまとめる作業に取り組んだ。取り組み始めた当初は教師とデータを共有し、隣で教師用のパソコンを使いながら操作の仕方を説明したり補助をしたりしながら、共同でスライド作りをした。

作ったスライドを、当初は協力学級全員の前で発表することを想定していたが、A くんは人前で発表することを極端に嫌がる傾向にあるため、まずは身近な人に見てもらおうようにした。特別支援学級の友達

指示を良く聞き、集中して教科書を読む姿が見られた。



2台の Chromebook を並べて「Google Meet」で友達と話し合いながら、「Jamboard」で自分の考えを発表する A くん。



や、A くんに関わる先生方に見てもらい、称賛してもらうことで少しずつ自信がついてきた様子で、さらにスライド製作に意欲的に取り組むようになった。

夏休み中には、家庭や児童クラブで製作した作品をスライドにまとめることができ、自分一人でスライドにまとめた嬉しそうに話してくれた。夏休み明けには、協力学級へ行って周りの友達に自分の製作したスライドを見せることができた。協力学級では、まだ「Google Slides」を使っていなかったもので、周りから大変注目されたことで A くん承認欲求が満たされ、協力学級の Chromebook を使う授業には進んで行くことが増えた。

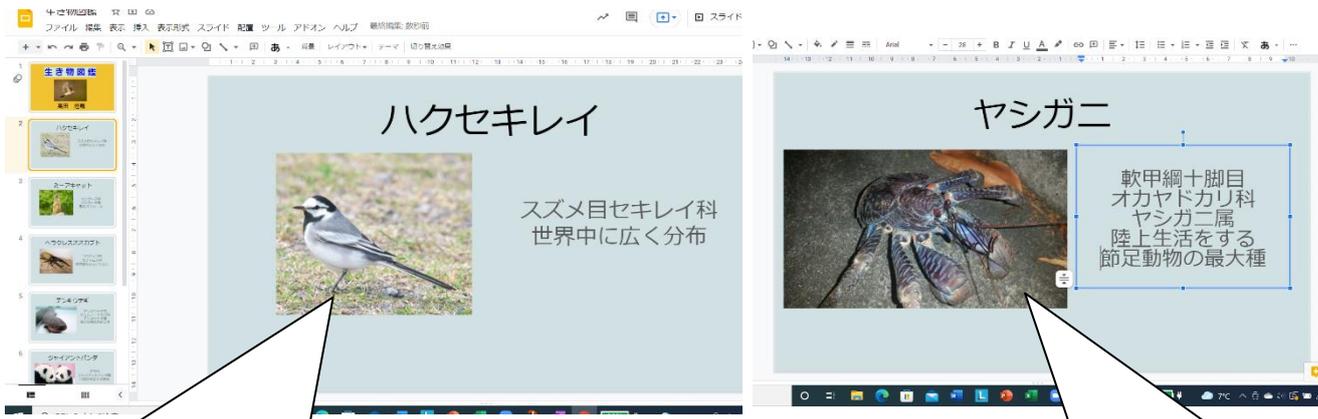
また、A くん保護者は、A くん作った図画や工作などの保管場所に頭を悩ませていた様子であった。今回の取り組みで、スライドで作品を記録することにより、保管場所や持ち運びの負担の軽減ができることの良さをご理解頂けた。夏休み中は、離れて暮らす祖父母等にも A くんのスライドを見せて頂き、A くん承認欲求を満たすことに進んでご協力頂いた。

2 学期からは、総合的な学習の時間において、自分の好きな鳥を調べてスライドにまとめる学習が始まった。(本校は愛鳥モデル校で、例年 4 年生を対象に総合的な学習の時間で鳥についての学習に取り組んでいる) A 君は鳥からいろいろな生き物へと興味が広がり、学習のねらいである鳥に関するスライドを最後までまとめることはできなかったが、『生き物図鑑』と称して自分の興味を持った生き物についてまとめることができた。できたスライドを協力学級で発表するように促したところ、発表会の中での発表はできなかったが、休み時間などに時間を見つけては協力学級の友達に見せに行く姿が見られた。この『生き物図鑑』は、現在も製作を続けており、スライドは 52 枚に達している。



スライド作りを好み、集中して製作に取り組む姿が見られるようになった。

A くんによる『生き物図鑑』



1 枚目のスライド。
最初は、総合的な学習のテーマに沿って、校庭で見かけたハクセキレイについて調べた。しかし、鳥を調べたのはこの 1 枚のみで、その後は、カテゴリーを問わず気になる生き物について調べている。

52 枚目の現在製作中のスライド。
現在は、カニをキャラクターにしたゲームにハマっており、主にカニを調べている。

また現在は、余暇時間に好きなゲームのキャラクターなどをスライドで製作し、周りの先生方や友達に見せて回っている。文字を書くことやみんなの前で発表することが苦手な A くんにとって、タイピングによる整った文字と画像による視覚で相手に伝えられるスライドは、A くん思いを表現する手段として有効と考えられる。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

〈学習面〉

4月当初のAくんは、学習に自信が持てず文字を書くことが苦手なため、すぐに癩癩を起してプリントやテスト用紙を破り、途中で学習を放棄してしまうこともしばしばあった。しかし、ICT機器を用いて漢字や計算の練習に取り組むようになってから、ゲーム的要素のあるアプリで興味が持てたり、書くことの負担が軽減したりし、癩癩を起すことが少なくなってきた。

特に算数においては、かけ算九九の習得が進むにつれて、学習に粘り強く取り組めるようになり、6月下旬から7月にかけて成績に大きな伸びが見られた。2学期にはわり算も習得し、算数の学習に対して進んで取り組もうとする姿勢が見られるようになってきた。

一方、国語は字形を整えて書くことに困難があり漢字の習得に苦戦したが、ICT機器による書くことにこだわらない漢字練習を取り入れたことで、熟語の理解が促進され、語彙力も徐々に身に付いてきた。また、4月当初は長文を見るだけで拒んでいたが、10月にスライドを用いて調べた語句をまとめる学習を取り入れたところ、調べたい語句を見つけようと進んで文章を読む姿が見られるようになった。

〈行動面〉

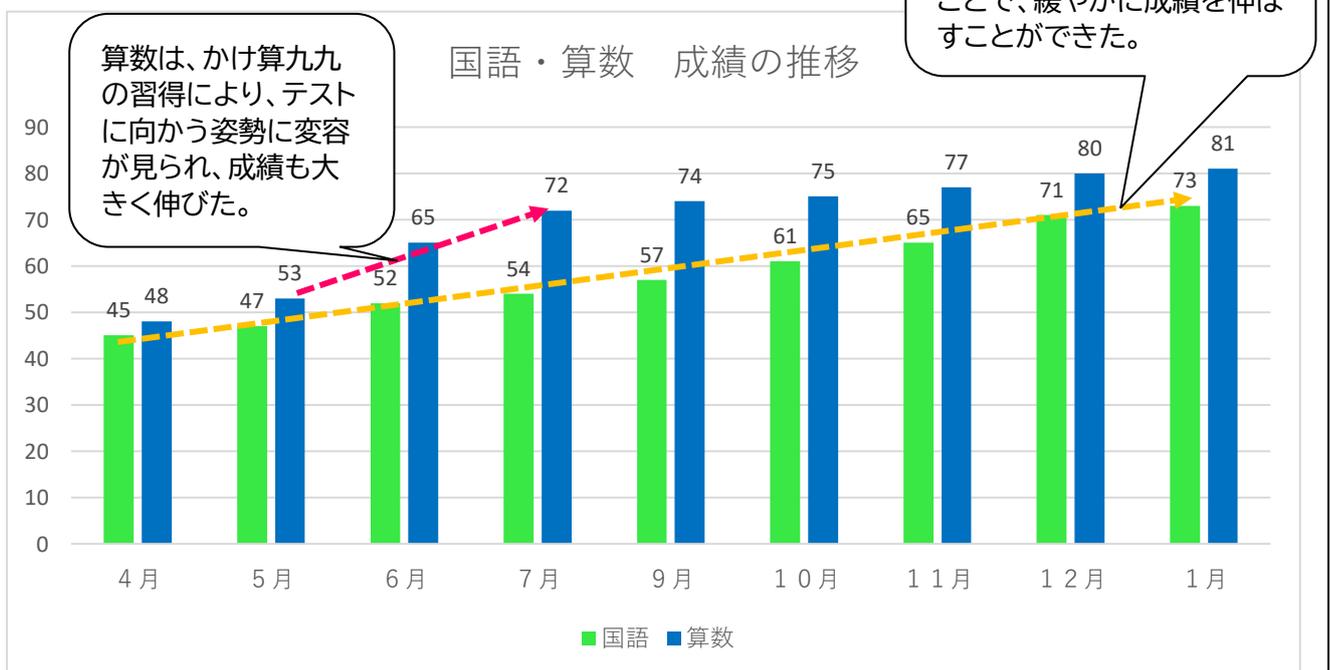
1学期は、友達と関わりたいという思いがうまく伝えられず、不適切な関わり方となってトラブルに発展することがしばしばあった。SSTを特別支援学級全体で取り組み、相手の気持ちを考えることや友達との適切な関わり方についての学習に取り組んだが、顕著な変容は見られなかった。

2学期後半辺りから、自分の好きなものや興味のあるものをスライドでまとめることができるようになり、スライドを周りを見せて回るようになった。すると、自分の作ったスライドを見せることで友達との関わりの糸口が見つけられるようになり、以前よりも穏やかに友達と過ごせる時間が増え、トラブルも減少した。

○エビデンス（具体的数値など）

〈学習面〉

・国語・算数のテストの結果を月ごとに平均点を出し、推移を調べた。



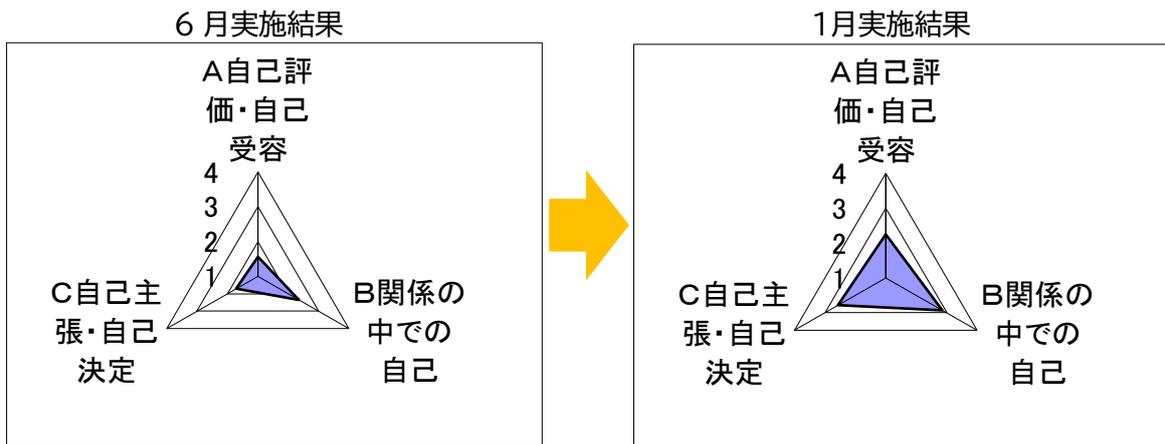
国語は、徐々に語彙力が身に付いてきたことで、言語の問題は概ね理解できるようになった。漢字については、読むことは概ね分かるものの、字形を整えて書くことの困難さから、点数に結びつかないため伸び悩みがある。長文読解においては、物語文は概ね正しく読み取れるようになったが、説明文はまだ不十分である。

算数は、かけ算・わり算が習得できるようになったことで、知識・技能を問う問題については確実に点数が取れるようになってきた。しかし、思考・判断を問う問題は読解力を伴うため、伸び悩みがある。

上記から、読解力や書くことに課題はあるものの、全体的な基礎学力は向上してきたと考えられる。

〈行動面〉

- ・6月に実施した「自尊感情測定尺度（東京都版）」によるアセスメントを、1月に再度実施した。

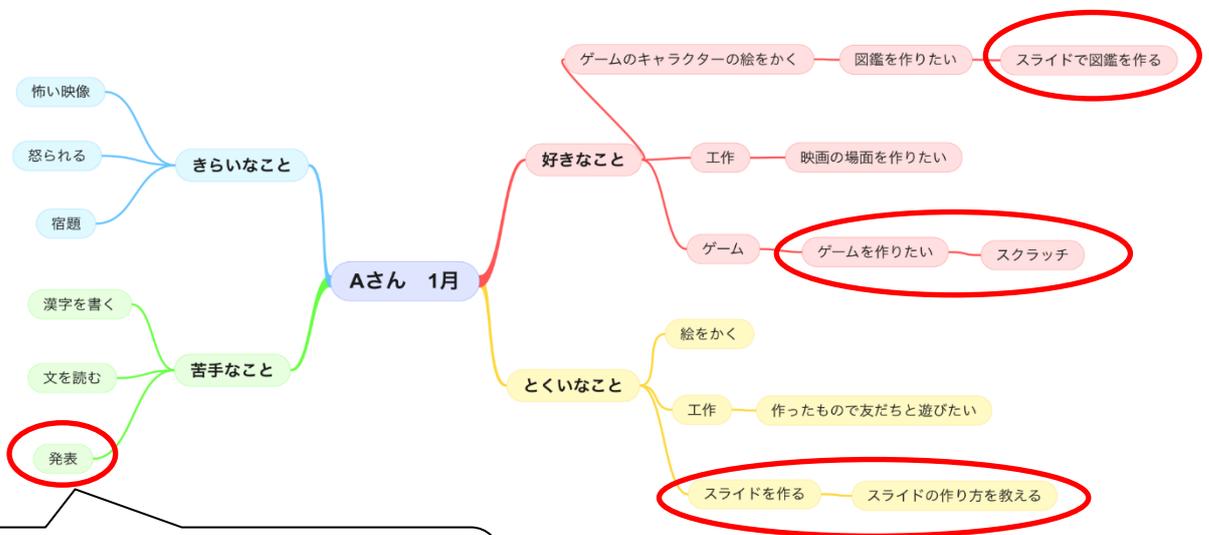


・1月に再度 A さんの思いをマインドマップで視覚化した結果は以下の通りである。6月から変容した部分は、赤で囲んでいる。

アプリ「Simple Mind」



A さん1月のマインドマップ



苦手なことに「発表」を挙げているのは、発表の経験が増え、苦手と自覚できるようになったためと考える。

6月に比べて、好きなこと・とくいなことが全体的に増えている。

「自尊感情測定尺度（東京都版）」によるアセスメントと、マインドマップによる A さんの思いについて、6 月と 1 月で比較をした。すると、6 月は著しく自尊感情が低かったが、1 月には明らかにどの観点も値が高くなっており、全体的に A さんの自尊感情が高まってきたことが分かった。さらに、自尊感情の高まりと比例して、好きなことや得意なことが増えてきていることに気付いた。こうした変容が見られるようになった理由として、以下の三点が考えられる。

一点目は、全体的な基礎学力が向上し、前向きに学習に取り組めるようになったことである。特にかけ算九九の習得は、A さんにとって大きな自信となり、自尊感情が高まったと考えられる。

二点目は、スライドを用いて自分の思いを進んで表現できるようになったことである。A さんはこれまで、書くことや人前で話すことが苦手なことから、自分に自信が持てず、承認欲求も満たされることが多かったと推測する。しかし、スライドを活用することにより、書くことや人前で話すことなど苦手な部分をカバーでき、自分の思いをイメージに近い形で表現できるようになった。そして、身近な人に自分の製作したスライドを見せたりスライドの使い方を教えたりすることで、注目されたり褒められたりすることが増え、承認欲求が満たされ、自尊感情の高まりに繋がったと考える。

三点目は、友達と穏やかに関わる場面が増えたことである。年度当初は、友達との適切な関わり方が分からず、わざと相手の嫌がるような行為をしてしまい、トラブルが絶えなかった。しかし、自分の作ったスライドを見せたり、スライドの使い方を教えたりすることで、友達との関わり方の糸口が見つけられるようになってきた。こうしたことが、A さんの友達との関わり方の変容に繋がり、結果的に自尊感情が高まったと思われる。

○その他エピソード

A さんは体育の授業は嫌いではないが、体育着に着替えるという行為がどうしても嫌だとのこと、年度当初は着替えるように促すとひどく怒り出してしまうことがしばしばあった。そのため、協力学級の担任や保護者と相談し、着替えができなくても咎めないようにしていくことにした。

2 学期後半になり、ボール運動の学習で活躍を周りの友達に認められ、「めっちゃ、楽しかった！」と言って体育の授業から戻ってきた。その 1 週間後、体育の授業があることを確認すると、進んで体育着に着替える A さんの姿が見られた。体育着に着替えていることを褒めると、「だって、同じチームは同じユニフォームを着るじゃん！」と言いながら体育の授業を楽しみにしている様子だった。それから、体育の授業になると、進んで着替えることが増えてきた。

こうした姿から、これまで周りとの違いを気に留めることなく、集団参加を拒む傾向にあった A さんだったが、「みんなとお揃いの体育着を着て頑張ろう」という気持ちが芽生え、周りや集団を意識できるようになってきたと考えられる。

来年度 A さんは 5 年生に進級し、高学年という括りになる。A さんの実態に合わせ、スモールステップで集団参加ができるようなアプローチの工夫をしつつ、高学年としての活躍の場を持たせ、より自己肯定感や自尊心を高められるようにしていきたい。



体育着に着替えて、協力学級の整列位置に進んで並ぶことができた A さん。
(1月)